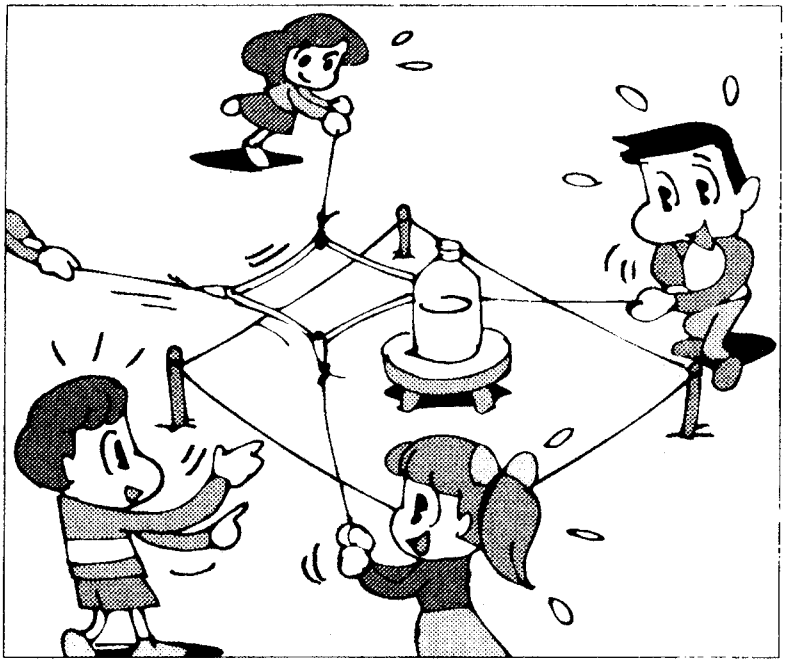
あそびのレシピ

言葉を遮断するおもしろさ

マジックハンド

色の名称は、たくさんあります。においもこれまた多種多様の表現がありますね。私たちは、色やにおいについて何種類の表現を持ち合わせているでしょうか。語彙が多いほど、微妙な表現ができますよね。

コミュニケーションの手段として、それぞれ言葉を一時遮断してみて、後で、どんな言葉が使いたかったのか、使えない場合、代わりにどんな表現方法を使って共通理解をつくり上げたのか、話し合うのもおもしろいものです。そんな体験を、日常生活に生かしてみませんか。



【人数】１チーム４～６人
【場所】バレーコート半面
【道具】ペットボトル、マジックハンド（丈夫なゴムひもを輪にしてそれに４－５㍍のロープを３－５本結び付けた物）、ひも
【遊び方】　①一辺が４－６㍍の正方形にひもを張ります。その中央部に水を少し入れたペットボトルを置く（屋外ならくいなどを打ってひもを張ります。ペットボトルは台の上に置くか、床に置くときは直径１㍍ほどの円を書いてその中央に置きます）
②チームのメンバーはマジックハンドのロープの端を持って中央部のゴムの輪を伸縮させて、ペットボトルをひもで囲ったエリアの外に出す
③その際ペットボトルが床に落ちたときは初めからやり直し
④チームのメンバーはロープを持った時点から会話をしてはならない（ロープを持つ前や失敗した時、終わった時にやり方や問題点などを話し合う）
⑤ペットボトルの数や水の量を変えても面白い
⑥時間を計って競うのもよい

九州あそびの研究所・中島宏所長
問い合わせは092（882）0363